

教務だより

2017年12月号
茗溪塾

茗溪塾教務部 03-3659-8638

WIN-WINで受験に勝つ！

茗溪塾塾長 宇野 雅春

いい話ではないのですが、「死ね！」という言葉が、とても頻繁に簡単に使われるようになってきました。日本語のニュアンスが軽くなってきているのですが、やはり言われるとショックな言葉です。

受験が煮詰まると親は気が気でなくなるもの。これは、先生も同じことです。今までは見過ごせていたことが、見過ごせなくなりつつ口出しをしてしまいます。生徒のアンケートによると親や先生に言われて嫌な言葉ベスト1位は「どうだった！」とか「どう？」という言葉でした。先日も模試帰りの生徒に「どうだった？」と聞いたところなんか態度が変…。心の中で「死ね！」と思われたような気がしたので、聞いてみると「なんでわかったの？」といわれびっくり。テストの間中、問題と戦いそれだけでなく出来栄に不安を感じている生徒からすれば、どうだった？と気楽に聞かれるのは、いささか「むかつく」のかもしれませんが。「受験における WIN-WIN」はただ仲良く受験しようという提案ではありません。友達との WIN-WIN、先生との WIN-WIN、親をはじめとする家族との WIN-WIN と考えると決して容易い内容ではないと思います。

友達との WIN-WIN は一言でいえば「心から相手の合格を喜んであげられるか？」がテーマです。勉強について足を引っ張り合うような関係 (LOSE-LOSE) であれば WIN-WIN は成立しません。自立した人間にしか WIN-WIN は成立しないのです。ちょっとしたことに腹を立てたりする反動的な人に自立は成立しません。常にだれかとの関係で右往左往し、目的を見失い、今を見失います。生徒同士だけでなく「生徒と親」や「生徒と先生」そして「先生と先生」の間にも時折誤解が生じます。これは相手を「理解してから、理解される」という方法を持っていないことから起こります。されたことだけとらえて恨んだりします。その時の相手のことを全く理解しようともしていません。親のことを理解している子供はいないのに、理解されないと嘆くだけの子供はたくさんいます。先生との関係でも同じことが言えます。先生の状況まではわからないのは子供だから致し方のないこと…。

でも、このように考えてくると「受験における WIN-WIN」というのはとても難しく、だけれども大切に思えてきます。整理すると

- ① 人に対して反動的にならない。ムカツと来たときは「一時停止ボタン」を押してどうして相手がそうしたのかを考える。
- ② 目的(受験)を自分のこれからの指針として受け止める。そしてしっかり勉強する。
- ③ 友達、親、先生について甘えてばかりいないで、相手を理解しようとしてみる。相手の立場になって、そして相手の気持ちになって話を聞く。
- ④ 受験は相手を蹴落とすことではなく、自己目標を達成することと考える。

以上を実践してみましよう。「友達がいたから頑張れた！」という言葉は WIN-WIN が成立していたという事なのだと思います。12月…心を決めて頑張るときです！